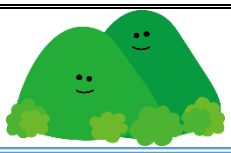
学校教育目標 『気づき 考え 行動する』 ～自分たちの学級・学校は、自分たちでつくる～

小島小学校だより
第 36号

金峰山



令和7年 2 月10日
文責　小山 恵子

熊本市立小島小学校
www.kumamoto-kmm.ed.jp

幅広い実体験を

先週は雪が舞い、寒さが厳しい毎日でしたね。その寒さの中、子どもたちは元気に運動場を駆け回っていました。子どもはすごい！！日頃は「寒い寒い」と震えている子も、雪が舞い始めると「雪だー！」といって運動場へ飛び出していく姿もありました。雪の魅力ですね。雪が珍しい地域だからかもしれません。

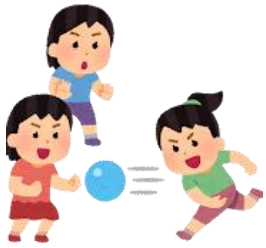
「すごい」と言えば、子どもの表現力のすごさを様々な場面で見ることがあります。

例えば算数の学習で、教科書にない解法を見出す子ども。国語の学習で、大人には思いつかない発想で文章表現する子ども。図工の作品づくりで独創的な発想をする子ども。

熊日新聞「ことばの宝箱」に掲載された詩にしても、子どもならではの発想や表現の面白さ、すばらしさを感じます。今回は 20 人が掲載されたのですが、他の作品もその子らしさが溢れるとても魅力的な作品でした。

私は熊本県・市国語教育研究会に長年所属し、数多くの子どもの作文を審査してきましたが、選考の際大事にしたのは「その子らしさ」です。表現が若干たどたどしくてもその子らしさが溢れる作品には魅力があります。また、経験に裏打ちされた言葉にはとても惹かれます。その子にしかできない表現だからです。

その子にしかできない表現の土台にあるのは実体験です。学習、読書、生活体験、遊ぶ体験、、。



表現の場は様々にあります。よく聞く言葉ですが、子どもは無限の可能性を秘めています。その可能性を引き出すのは実体験だと考えます。体験に勝るものは無し。幅広い実体験を積み重ねることで、表現の幅を広げていってほしいと思います。

熊本市造形展は明日十一日(火)が最終日です。各学年の代表作品が展示されています。ぜひ動植物園・花の休憩所へ。他校の作品を見るのも参考になります。